

「水土を守る人々」では、農業や農業用水の役割とこれらが持つ多面的機能等が十全に発揮されていくために、農業水利施設等の維持管理を支える人々の日常にスポットを当てて、その取り組みを紹介することで、農業農村整備や多面的機能の発揮が「人」の支えの上に成り立っていることを伝えていきます。
※不定期で掲載いたします。

上場地域における用水の管理について

～上場土地改良区総務課会計係 伊藤俊介 氏～ 佐賀県唐津市・東松浦郡玄海町

1. 上場地区農家のために

今回「水土を守る人々」で紹介するのは、佐賀県の西北部に位置する唐津市、玄海町にまたがる約5,200haの農地を対象とする農業用水の確保等を目的に、昭和48年度から平成14年度にかけて、国営上場土地改良事業で造成された農業水利施設等の管理を行っている、上場土地改良区総務課会計係の伊藤俊介さんである。



上場地区概要の前で



伊藤俊介さん

伊藤さんは大学では法学部を専攻し、実家は農家ではないこともあり、採用試験を受験するまで土地改良区が存在は知らなかった。日頃から人の要望に応えるような仕事をしたいと考えていたところ、市報に土地改良区の採用試験の掲載があり、自身で調べたところ土地改良区が農家の要望に応える重要な仕事を担っていることを知り、地元農家の方々の役に立てるならと採用試験を受けた。

伊藤さんは上場土地改良区に勤務して13年目で、現在の総務課会計係の仕事は4年目である。始めの9年間は管理課で施設の管理・維持を担当した。当時、現地で農家の方と接した際に賦課金等の多くの質問に対応したが、担当業務以外のことはすぐに回答することができず悔しい思いをした。そのため、土地改良区全体の仕事も知る必要があると考え、事務の仕事我希望して現職に配置異動し、施設の管理・維持から事務的作業まで土地改良区の作業全てを経験し、精通している。



操作盤での用水管理

2. 5箇所のダムを用いて行う用水管理

上場土地改良区は、国営上場土地改良事業及び関連する県営事業で造成された農

業水利施設等を管理しているが、その施設は、ダム5ヶ所、ファーム・ポイント30ヶ所、揚水機場12ヶ所、加圧機場55ヶ所と非常に多く、広範囲に点在しているため、管理には苦勞が多い。

また、かんがい期である4月～9月になると各々のダムに送水するため、揚水機場のポンプを24時間体制で運転・監視することが必要で、土地改良区の全職員8名で、土日も含め2名ずつ交代制で対応している。

3. 苦勞話し

苦勞したと話されたことは、採用当時は農業の経験もないため、農家の方の話される言葉の意味がわからなかったこと。そして広範囲に多くの施設があるため、施設名を覚えてもそこに行く道がわからず、とにかく休日に自家用車で各施設を回り、施設の位置と道を覚えることが大変だったとのことである。

4. 仕事への想い

土地改良区の仕事を行う上で、正確さも必要だが迅速に対応することが重要であると感じている。たとえば農家から水が汚れているとの連絡があれば、フィルターの目詰まりを防止するためにも、



左から伊藤さんと古賀課長
排泥弁から汚れた水を抜いて水をきれいにすると、農家から「早く対応してくれてありがとう」と言われ、やりがいを感じるとのこと。常に組合員からの要望に対して、迅速に対応できるよう心がけている。伊藤さんは非農家であるため、作物の収穫時期、かん水時期また畑を見ても何が作付けてあるかわからないことがあるが、「今後も、さらに農家の目線となり勉強していく。」と語る。

5. 終わりに

上司である古賀大成総務課長に伊藤さんについて伺った「伊藤君は職員の中で一番探求心が強く、わからない事は早い段階で相談し、仕事を身につけるのが早い。職員の中で年齢は一番若いですが、施設の管理から予算・決算・賦課金の対応までできるので、非常に頼りにしている。なおかつ、いやな仕事でも進んで行き、何事にもない姿勢に感服しています。」と語り、伊藤さんはそれを照れながら聞いていた。

最後に伊藤さんへ苦手なことを伺った「私は理事会、総代会等大勢の人前で話することが苦手で、開催される2～3日前からそわそわ仕始めます、なので総代会等があるときは、心中穏やかではありません。」と笑顔で語られていた。

今後も無事に総代会等での説明を立派に果たされることを祈りご紹介とさせて頂く。

【九州農政局設計課】